



木次線開業 地域とともに100年の歩み

JR木次線は大正5年10月、簸上鉄道(株)として宍道～木次駅間が開業してから、本年度100周年を迎えます。地域の重要な公共交通機関として多くの人々、数々の物資を運んできた木次線。一世紀にも渡る歴史の中で、社会情勢の変化に合わせて、木次線もその役割を変えていきました。一方で、列車の運行は脈々と受け継がれ、私たちの暮らしにとってなくてはならないものになっています。今月号では、これまでの木次線の歴史を振り返ります。詳しくは [木次線100周年](#) [検索](#)

木次線のあゆみ

- 1916年(大正5年) 簸上鉄道宍道駅～木次駅間開業
加茂中駅・大東町駅・木次駅開業
- 1921年(大正10年) 幡屋駅開業
- 1932年(昭和7年) 国鉄木次線木次駅～出雲三成駅間開業
日登駅・下久野駅・出雲八代駅・出雲三成駅開業
- 1934年(昭和9年) 簸上鉄道国有化
宍道駅～出雲三成駅間が木次線となる
出雲三成駅～八川駅間延伸開業
亀嵩駅・出雲横田駅・八川駅開業
- 1937年(昭和12年) 八川駅～備後落合駅間延伸開業し全通
出雲坂根駅・油木駅開業
- 1958年(昭和33年) 三井野原駅開業
- 1962年(昭和37年) 南宍道駅開業
- 1963年(昭和38年) 南大東駅開業
- 1987年(昭和62年) 国鉄分割民営化により西日本旅客鉄道が承継
- 1993年(平成5年) 使用車両がキハ120形気動車に統一
- 1998年(平成10年) トロッキ列車「奥出雲おろち号」運転開始
- 2001年(平成13年) 全線に列車集中制御装置(CTC)導入
- 2007年(平成19年) 木次駅～三井野原駅間の各駅の駅名に古事記や日本書紀にちなむ愛称が付く

木次線開業100周年 記念式典・イベント

100周年家畜記念品プレゼント!
・100周年記念入場券
・記念オリジナルバッチ
・特製限定のクッキー
※お土産の購入は必ずお忘れなく!
※お土産の購入は必ずお忘れなく!

10月8日(土)
場所 JR木次駅・駅前広場周辺
時間 9:30～14:00

記念式典

- 9:20 オープニングセレモニー
- 9:30 記念式典開会
- 10:05 出発合図(木次駅2番ホーム)

ステージイベント

- 10:10 イベント開会
- 出雲楽友協会演奏
- フォトコンテスト表彰式
- 第1部
- 10:30 仁多乃炭太鼓
- 10:50 しまねっこダンス
- 11:00 六子ライブ
- 11:40 木次中学校吹奏楽部
- 12:00 輪音天球(よさこい)
- 豪華賞品が当たる!
木次鉄道部クイズも開催!
- 第2部
- 13:00 地元レンジャーステージショー
- 13:20 三刀屋高校華道部演奏

体験コーナー

- 10:30-13:00 オリジナル缶バッジづくり
木次線100周年を記念したオリジナル缶バッジを作ることができます。親子でぜひご参加ください!

物産コーナー

福トラク市
うなんまめなカー市
地元の農産加工品からスイーツなど盛りだくさんの物産を前面で販売します。

特別企画

「しまね映画祭 2016 in 雲南」
共催企画
「銀河鉄道の夜」上映
宮沢賢治生誕120周年、そして木次線開業100周年を記念して映画「銀河鉄道の夜」を上映します。
会場 木次駅 13:30-15:00
入場料 全席自由(60歳以上) / 500円他
※お土産の購入は必ずお忘れなく!

昔懐かしの写真展示

会場 木次駅
木次線にまつわる昔懐かしい写真をパネル展示します。

SL「C56108号」一般公開

木次駅より徒歩15分の木次体育館にてSLの展示を行います。
会場 木次体育館 雲南市木次町新中409

「アートトレイン」展示

子ども達とつくるトロッキ列車アート作品「アートトレイン」の展示をします。列車の姿から想像を膨らまして記念撮影もできます!
会場 木次駅

木次線の沿革

木次線は山陰本線宍道駅と芸備線備後落合駅を81.9km、全18駅で結ぶ出雲地方唯一の陰陽連絡線です。

大正4(1915)年10月、奥出雲の山林資源開発を主なねらいとして、宍道～木次間21kmの線路建設が着手され、1年の歳月をかけて簸上線の線路建設が完了しました。開通式は、大正5年10月11日に木次駅で行われました。

昭和2年12月には、当町を巡り、山陰と山陽を鉄道で結ぶための鉄道工事が始まります。下久野トンネル(全長2,241m)建設では、地盤が固いために3年以上の難工事になるなど、木次～出雲三成間は5年もの歳月をかけ、昭和7年に開通しました。旧三成村では同年末に盛大な開通祝賀会が行われています。

昭和9年には出雲三成～八川間がそれぞれ開通。当初は大曲経由で旧亀嵩村は通過しない計画でしたが、地元民の強い請願により現在のルートが確立されています。

昭和12(1937)年12月には、八川～備後落合間が開通して芸備線と連絡。急勾配の山々を越える工事手段として、三井野原～出雲坂根間では三段式スイッチバックが採用され、およそ11年もの歳月

を掛けて、現在の基となる木次線の姿が完成しました。



C56 三段式スイッチバック

木次線の現状

開業当時、木次線は簸上鉄道(株)により運営されてきました。その後、昭和9年に国有化され、日本国有鉄道が事業継承。昭和62年の国鉄民営化以降、現在までJR西日本が運営を行っています。

簸上鉄道(株)当時、運搬のメインは島根木炭としての大量出荷をは



キハ02形(昭和30年頃)

これからの木次線

ふるさとのローカル路線として、木次線が私たちの生活や地域の産業に与えてくれた恩恵は計り知れないものがあります。

本年3月22日には、JR西日本米子支社木次鉄道部とともに、沿線自治体、島根県、商工、観光諸団体でつくる木次線開業百周年記念事業実行委員会(委員長・勝田町長)が設立されました。

同実行委員会では、百周年を記念した事業を通じて、利用促進と地域の活性化に繋がる取り組みを進めています。WEBサイト「木次線開業100周年記念特設ホームページ」も立ち上がり、沿線各地でイベントも行われています。

来る10月8日(土)には木次駅にて100周年記念式典を開催します。今後も木次線に対する、皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

現在、ワンマン運転の気動車は、通学者や高齢者の生活利用など、沿線における重要な公共交通であり、平成10年4月から運行されている観光トロッキ列車「奥出雲おろち号」は、年間約1万5千人を運ぶ観光資源として観光客を楽しませています。



出雲坂根駅 冬のちどり号



木次線全線開通50周年記念(昭和62年)